

中 部 日 本 養 鶏 研 究 会

1 学会名：中部日本養鶏研究会
(The Central Japan Poultry Science Association)

2 事務局：

(独)家畜改良センター岡崎牧場内

〒444-3161 愛知県岡崎市大柳町栗沢1-1

TEL 0564-46-4581

FAX 0564-46-4587

E-mail nlbc_okazaki@nlbc.go.jp

URL <http://www.nlbc.go.jp/okazaki/gyomu/kaigi/tyubunihon/tyubunihon-top.htm>

3 目的：

養鶏関係者の相互研鑽と親睦を図ることを目的とし、併せて養鶏産業の発展に寄与するため、次の事業を行う

- (1) 鶏の改良、飼養管理等に必要な知識、技術及び情報の交換
- (2) 鶏の改良、飼養管理等に関する調査と研究
- (3) 養鶏に関する研究講座の開催
- (4) 養鶏産業の振興に必要な事項
- (5) その他本会の目的達成に必要な事項

4 組織：

・代表者(会長)：家畜改良センター岡崎牧場長 米田勝紀

・会員68名：入会資格は次の各項に該当する者

- (1) 養鶏業者、種鶏業者、孵卵業者
 - (2) 府県単位の農業団体
 - (3) 全国を区域とする農業団体
 - (4) (2)、(3)以外の農業団体
 - (5) 養鶏関連会社
 - (6) 前各項に所属する技術職員
 - (7) 高等学校並びに大学教職員
 - (8) 大学またはこれに準ずる学校に在籍するもの、大学院生も含む
 - (9) 府県及び市町村養鶏技術職員並びに岡崎牧場職員
 - (10) 本会に賛同する者
- ・役員：理事10名(福井県、静岡県、岐阜県、愛知県、三重県、京都府及び大阪府関係者)、監事3名(静岡県、岐阜県及び愛知県関係者)、常任委員9名(静岡県、岐阜県、愛知県、三重県関係者及び岡崎牧場職員)

5 沿革：

昭和31年に「中部日本種鶏研究会」として発足。昭和57年度に名称を「中部日本養鶏研究会」に改めた。

6 活動内容と特色：

昭和30年代前半は戦後の食糧難も一段落し、種ヒ

ナの輸入解禁前であったこともあり、国内には種鶏の改良を行う多くの種鶏場や養鶏場が存在しており、これら養鶏関係者の相互研鑽のため、当時、全国で研究会(勉強会)が組織されていた。「中部日本種鶏研究会」もその一つで、会の名称からも良い種鶏を作っていきたいという意欲が感じられる。

しかしその後、種ヒナの輸入解禁、養鶏場の規模拡大等により、国産種鶏場や養鶏場自体の戸数が激減してしまい、他の研究会が活動を終了・休止する中、「中部日本種鶏研究会」は「中部日本養鶏研究会」と名称を変え、常に時代のニーズに沿った話題提供等を行うことで、唯一、現在まで活動を継続している。

現在、通常総会及び交流促進会(会員による研究成果報告)を年1回実施、研究講座(最近の養鶏情勢を反映した課題についての専門家による講演)を原則として年1回以上、それぞれ開催している。

(参考) 研究講座の演題と講演者(最近の事例)

・平成24年度

- (1) ウィンドウレス鶏舎(採卵鶏)における鶏病の発生要因と対策 鶏病研究会 佐藤静夫顧問
- (2) 国産鶏利用の重要性について

国産鶏普及協議会 小松伸好会長

- (3) たまごかけご飯が変わった!

(株)西垣養鶏場 西垣源正代表取締役

・平成23年度

- (1) 鳥インフルエンザの猖獗^{しょうけつ}を絶つには?

北海道大学大学院獣医学研究科微生物学教室 喜田 宏教授

- (2) 高病原性鳥インフルエンザ発生農場の対応と養鶏現場における発生予防対策の具体例

三重県南勢家畜保健衛生所防疫課 野澤 馨主査

入会希望者は事務局に連絡して、入会手続きを行う。

会費(年額)は、個人会員3,000円、学生会員1,500円、法人会員15,000円。なお、非会員も当日1,500円にて研究講座等を聴講することができる。

名称はあたかも中部地方限定の研究会のようで、実際、会員は中部地方在住者が主体となっているが、このような背景から、今後は全国の養鶏関係者にも参加を呼びかけ、引き続き養鶏産業の振興に貢献していきたいと考えている。

以上の概要や最近の研究講座の事例等をご覧になり、本会についてご興味を持たれた方は事務局までご連絡下さい。

7 文責者：(独)家畜改良センター岡崎牧場次長 筒井真理子